

ECU（エディスコーワン大学）への交換留学生 特派員レポート Vol.10

今回は、福田有沙さんからレポートを送って頂きました。「勇気を出して言ってみる！」さて、何に対しての発言でしょう。詳しくは、福田さんのレポートを拝見してみましょう。

私の部屋では、毎晩夕飯を当番制で作り、ルームメイトとの関係が良好です。しかし、月日が経つとお互いに気持ちが悪くなってしまいますよね。今回は相手に伝えることの大切さについて経験したことをお話します。

8 月半ばまで、私の日課は掃除から始まりました。ルームメイトが使った調理器具を使えばなしで授業に出かけたり、各自の部屋に戻ってしまったり…リビングにも各自のパソコンや私物などが机の上いっぱい、誰も捨てに行かないゴミとお酒の瓶の周りを6階に住んでいるのにも関わらず、コバエが飛んでいる…そんな状況に「いい加減にしてくれ！」と心の中では思いながらもなかなか言えずに、いつも一人で掃除をしていました。

日 本人って他人の行動を見ながら察することが得意ですよ。だけど、ここではそんな事は通用しません。ある日、私は誰もゴミ捨てに行かないので、どこまで放置したら気づいてくれるのかと思い、ゴミ箱にゴミがたまったらまとめてすぐ捨てられるようにしましたが、一向に誰も捨てません。挙句の果てには「ありさ、この荷物はどうしたの？えっ、ゴミ？すごいわね。」と返されてしまいました。私もゴミと生活するのは嫌なのでカートを持ってきて、結局ゴミを捨てに行きました。

こんな生活に私も我慢の限界で、リビングのホワイトボードに「お願いだから、部屋を去るときはきれいにしてく

れ！」と書きました。



その日の夕方、私は「あー、ルームメイトに嫌われたらどうかなー。やっぱり自分が我慢していれば良かったのかなー。」という気持ちでいっぱいみんなと話すのが怖かったです。

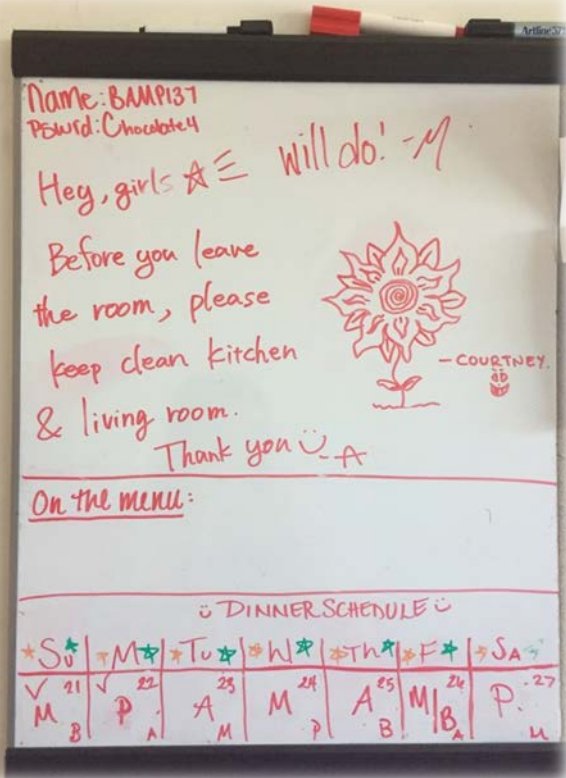
しかし、ホワイトボードを見ると「Will do! - M」と書いてありました。Mというのはアメリカ人のルームメイトのイニシャルです。また、夕食後、「これから食器洗いも当番制で平等にしよう！」ともう一人のルームメイトが提案されました。夕飯作りの当番表の下に小さく書かれているのは食器洗いの当番です。その後、朝ごはんは各自で片付ける習慣ができ、ゴミもみんな捨てるようになりました。

日 本人としてのあたりまえが通じない、こんな思いをするのは外国人とのシェアハウスをしているから特に実感するのだと思います。

しかし、良い意味でも、悪い意味でも、ルームメイトとの関係がきちんとこの2か月で築き上げられたと実感しました。

今回は自分の気持ちをきちんと伝えれば周りも理解し、

改善してくれる、しかし言わないといつまでたっても環境は変わらないという事を、身をもって学習しました。この一件で私はより、ルームメイトとの距離を縮めることができました。



都市生活学部都市生活学科 2年 福田有沙